

# 愛別町教育委員会点検・評価報告書

(令和4年度対象)

令和5年9月

愛別町教育委員会

## はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、議会に提出するとともに、公表することになっております。

このため、教育委員会では、法の趣旨に基づき効果的な教育行政を推進し、町民への説明責任を果たすという観点から、教育委員会の点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

令和2年度から第1次愛別町教育振興基本計画がスタートして、計画の進行管理を行う中で成果や課題を評価・検証することになっておりますので、この報告書を基本計画の進行管理とリンクすることとします。

## 目次

1. 教育委員会の活動状況について	1
2. 教育振興基本計画の評価指標と評価の方法について	3
3. 教育振興基本計画の達成状況と評価について	
1 幼児教育	4
2 学校教育	7
3 社会教育	18
4 文化の振興	22
5 スポーツの推進	24
6 基盤整備	26
7 地域の教育力の向上	27
8 家庭教育	28

## 1. 教育委員会の活動状況について

### 教育委員会の開催状況

開催月日	提出議題等	
令和4年4月25日 (令和4年第6回)	議案 議案 議案 議案 報告 報告	愛別町学校運営協議会規則の一部を改正する規則について 教育行政に関する相談に関する事務を行う職員を指定する規則の一部を改正する規則について 愛別町教育委員会事務局職員の定数配置に関する規則を廃止する規則について 愛別町教育支援委員会委員の委嘱について 臨時代理の報告について 臨時代理の報告について
令和4年5月31日 (令和4年第7回)	議案 議案 議案 議案	愛別町学校運営協議会委員の任命について 愛別町いじめ対策協議会委員の任命について 愛別町学校運営協議会設置運営要綱の一部を改正する要綱について 教育委員会の意見を聴取する令和4年度教育委員会補正予算について
令和4年7月19日 (令和4年第8回)	議案 議案 議案 議案	愛別町教育委員会事務局職員の任命について 愛別町幼児センター運営委員会委員の委嘱について 愛別町立学校における教職員のハラスメント防止等に関する指針について 教育委員会の意見を聴取する令和4年度教育委員会補正予算について
令和4年9月2日 (令和4年第9回)	議案 議案 議案 議案 報告	愛別町立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則について 令和4年度愛別町教育表彰被表彰者の選考について 教育委員会の意見を聴取する令和4年度教育委員会補正予算について 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価について 臨時代理の報告について
令和4年10月3日 (令和4年第10回)	議案 報告 報告	令和4年度愛別町教育表彰被表彰者の決定について 臨時代理の報告について 愛別町教育委員会教育長職務代理者の指名について
令和4年10月21日 (令和4年第11回)	議案 議案	愛別町遠距離通学費補助金交付要綱の制定について 教育委員会の意見を聴取する令和4年度教育委員会補正予算について



	議案	愛別町教育委員会の所管に係る愛別町個人情報保護条例施行規則を廃止する規則について
	議案	愛別町生徒制服等購入費及び通学交通費助成事業実施要綱の一部を改正する要綱について
	報告	教育長に委任された事務の管理及び執行状況について

## 2. 教育振興基本計画の評価指標と評価の方法について

第1次愛別町教育振興基本計画では、学校教育と社会教育の分野ごとに成果指標を設け、計画策定時の現状値から5年後の目標値を設定しています。

評価の方法としては、毎年度の実績値と目標値の成果指標を掲載し、実績値に対する所見や成果指標以外の取り組み状況から、取組実績に対する自己評価と今後の課題や方向性について明らかにすることとしています。

### 第1次愛別町教育振興基本計画（抜粋）

#### 第7章 計画の推進と進行管理

##### 2 計画の進行管理

教育施策を着実に、かつ、効果的に実施していくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく「教育委員会事務点検・評価」により、各施策・事業の実施状況を点検・評価するとともに、その結果を施策の展開に反映させながら実効性の高い取組を進めます。また、計画の推進成果をわかりやすく確認できるよう「成果指標」を設定し、進行管理にあたります。

成果指標については、5年目に4年目までの成果や課題を評価・検証し、必要に応じて目標等の見直しを図り、次期の新しい計画へとつなげていくこととします。

### 3. 教育振興基本計画の達成状況と評価について

#### 1 幼児教育

##### (1) 生涯にわたる学びの基礎を培う質の高い幼児教育の実現

- ・ 幼児教育の質の向上
- ・ 交流と連携の促進と充実
- ・ 保育環境の充実

##### ○成果指標

	R 4 実績値		目標値	
① 幼児センターの保育に対する肯定的な意見の保護者の割合	行事の充実 元気に楽しく登園	100% 100%	行事の充実 元気に楽しく登園	95% 100%
② 家庭や地域と連携し、子育て支援に努めているとする教員の割合	子育て支援に努めたとする教員の割合	100%	図られたとする教員の割合	100%
③ より良い環境構成や援助の工夫に努めているとする教員の割合	工夫に努めたとする教員の割合	100%	工夫に努めたとする教員の割合	100%

※ 幼児センター保護者アンケート及び幼児センター職員自己評価

##### 【取組状況】

幼児教育の質の向上を図るための職員研修については、年度当初に計画していた研修をほぼ行うことができました。特に、幼児の実態把握の方法や指導の方策について全職員が理解を深めるため、外部講師を招き、3回にわたり全体研修を行ったことは大きな意義がありました。園外研修は、当麻幼稚園で開催された上川管内国公立幼稚園教育研究大会に参加し、その他の研修については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモートによる研修に参加し、特に新規採用保育教諭の質の向上に努めました。

また、特別な配慮を必要とする幼児への支援については、特別支援教育支援員2名による支援体制を継続し、保護者の悩みや不安の聞き取り、医療機関への同行を行い、保護者への支援の充実に努めました。更には、月1回開催されるケース会議において、美深高等養護学校あいべつ校や上川中部こども通園センターから職員を招き、困り感のある幼児への援助の手立てについて助言をいただき、支援の充実に努めました。

交流と連携の促進と充実については、小・中学校との交流を予定通り行うことができ、交流を深めることができた一方、ほうらい大学や高齢者との交流は、高齢者への新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止しました。

また、幼小連携については、愛別小学校を訪問し、1年生の授業を参観するとともに、幼小の職員による全体研修の中で、幼児や児童の実態から、課題となる点を洗い出し、幼小で連携して育てていきたい力について検討しました。

保育環境の充実については、環境構成会議を開催し、未満児と以上児に分かれ、会計年度任用職員を含めて、より良い環境構成や幼児への援助について協議を行い、日常の保育環境の充実に努めました。

また、各行事については、4月及び5月に新型コロナウイルスによる感染者が出て休園

措置をとったため、運動会を1カ月延期し、感染防止の観点から、2部制にして開催しました。同様に、保育生活発表会についても、2部制にして開催しました。その他の行事については、ねらいを見直したり、内容を一部変更したりして、感染防止に努めながら実施することができました。

### 【自己評価】

職員研修については、リモートによる研修が多くなりましたが、年度当初に計画していた研修をほぼ予定通り行うことができ、会計年度任用職員を含めた全職員を対象に全体研修を行ったことにより、職員の質の向上を図ることができました。

また、特別な支援を必要とする幼児への支援、幼小連携の取組みについては、保護者や小学校と連携して適切な対応ができました。

交流事業については、コロナ禍のため、高齢者との交流を行うことはできませんでしたが、小・中学校と交流を行うことにより、小・中学生のお兄さん、お姉さんと交流を行えたことは大変意義がありました。

また、幼小連携についても、職員の交流や意見交換などを行うことにより、連携を深めることができました。

環境構成の充実は、保育の充実にはかせないことであり、これまでよりは環境を整えているように思いますが、子どもの満足感が得られるまでにはなっていない状況です。

行事については、新型コロナウイルスの影響により、運動会と保育生活発表会について、2部制により開催しましたが、より良い内容になるよう、職員でアイデアを出し合い、感染症対策を行いながら実施したことは、意義のあるものになりました。

### 【今後の課題・方向性】

幼児教育の質の向上については、保育教諭としての資質向上を図る観点から、各研修に積極的に参加します。

また、特別な支援を必要とする幼児への支援、幼小連携の取組みについては、引き続き、保護者や小学校と連携し、ニーズに応じた対応を行います。

小・中学校等との交流事業及び幼小連携の取組についても、継続して実施していきます。

保育環境の充実については、より良い環境構成を行うため、環境構成会議で協議を行い、これまで以上に子どもの満足感が得られるよう、適切な環境構成や援助を行うとともに、安全面の配慮として、けがや事故を未然に防ぐため、保育者の立ち位置や子どもの動線に配慮した環境づくりを行い、子どもへの目配りを充分に行っていきます。

また、引き続き、感染症対策を充分に行いながら、各行事の充実に努めていきます。

## (2) 子育て家庭をつなぎ、支える支援活動の充実

・子育て支援活動の推進

### ○成果指標

	R 4 実績値		目標値	
①広場や各種事業への対象者の参加率	親子で楽しむ行事の参加率		親子で楽しむ行事の参加率	
	のびっこ教室	20.4%	のびっこ教室	30%
	親子あそび	21.8%	親子あそび	25%

※子育て支援センター事業報告

#### 【取組状況】

のびっこ教室と親子あそびを毎月1回、ミニ講座を年間11回、ぐんぐん広場を年間7回計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から事業を中止、延期、内容変更により対応しました。

また、子育てに不安や悩みを持つ保護者をサポートし、悩みを他の保護者と共有することができる機会や相談できる場所を提供するため、事業のない日は開放日として、ハイハイ広場やよちよち広場、のびのび広場、わくわく広場、おでかけ広場等を行い、毎月1回「のびっこ通信」を発行しました。

#### 【自己評価】

新型コロナウイルスの影響により、例年よりも行事の実施回数は少なくなりましたが、保護者からは、支援センターの事業に対し、肯定的な意見が多くあり、事業内容の充実や子育て家庭のネットワークづくりの推進から、子育て支援活動推進の目標がほぼ達成されている状況です。

#### 【今後の課題・方向性】

引き続き、新型コロナウイルスの感染症対策を充分に行いながら、保護者のニーズに合わせた新たな事業実施や事業内容の充実を図ります。

成果指標では、行事の参加率が目標値の参加率に達していないことから、今後、事業のPRを強化し参加率の向上に向け、子育て支援に努めていきます。



## 2 学校教育

### (1) 社会で生きる力を育む社会に開かれた教育課程の実現

- ・ 確かな学力の育成
- ・ 国際理解教育の充実
- ・ 情報教育の充実
- ・ キャリア教育の充実

#### ○成果指標

	R 4 実績値			目標値	
		国語	算数数学	理科	
①全国学力調査の正答率が全国平均に達している領域数	小学校6年 中学校3年	8/14 12/14	13/16 11/14	12/17 17/21	両学年とも、すべての領域で全国平均を上回る
②外国の人と交流したい、外国のことを知りたいと思う児童生徒の割合	設問なし			小学校6年 中学校3年	90% 90%
③コンピュータ等のICTを週1回以上使用したとする児童生徒の割合	小学校6年 中学校3年	100% 100%		小学校6年 中学校3年	60% 100%
④将来の夢や希望を持っている児童生徒の割合	小学校6年 中学校3年	100% 53.4%		小学校6年 中学校3年	100% 100%

※全国学力・学習状況調査

#### 【取組状況】

確かな学力の育成については、特別支援教育支援員や学習指導員の配置、町教委主催の愛別チャレンジゼミ（旭川練成会との連携事業）、放課後学習サポートを実施し、一人ひとりに対応したきめ細かな指導体制を構築し、学力向上に努めました。

国際理解教育の充実については、令和元年8月から英語指導助手を2名体制にして、小学校と中学校にそれぞれ常駐することとしております。また、中学校の英語教諭による小学校への本格的な乗り入れ授業も2年目になり、定着してきています。さらに英語検定の検定料の助成を行い、英語への学習意欲や英語力の向上を図っています。

情報教育の充実については、1人1台端末の積極的な活用に向けて、学校と連携し、主体的・対話的で深い学びが可能な教育環境の充実を図っています。

キャリア教育の充実については、社会教育事業「夢の教室」を活用し、夢を持つことの大切さなどを考える機会を作りました。

#### 【自己評価】

令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果は、小学6年生の国語・算数、理科の全教科、中学3年生も国語・数学、理科の全教科とも全道全国平均正答率を上回る結果となり、基本的な学力は身につけていると考えられます。特別支援教育支援員等の配置により、少人数指導やTT指導を行うことで個に応じた指導ができ、学力の底上げができています。放課後学習サポートは少しずつ参加人数が増え、学習意欲の向上が図られています。

愛別チャレンジゼミは約40%の参加申し込み者があり、生徒及び保護者の学習に対す

る関心は高まっていると考えますが活用頻度は高くない現状です。

外国語活動及び英語の教科指導においては、ほぼ毎時間ALTとのTT指導を実施できているとされており、外国人や英語に対する苦手意識はなくなっていると考えられます。中学校教諭の乗り入れ授業については、5・6年生の英語の指導に中学校教諭が指導にあたることにより接続がスムーズになり、小学校の外国語活動の充実が図られています。

ICT機器の活用については、学年の発達段階や教員によって活用頻度に違いがあるものの、タブレット活用の意識が高まってきている状況です。中学校においてはタブレットの持ち帰りが始まり、家庭での学習にも活用しています。授業において、ノートの代わりとして活用し、児童生徒の学習効果が上がっていると考えられます。

キャリア教育の充実については、コロナ禍のため「夢の教室」が3年続けてオンラインで実施されました。コロナ前は講師とともに身体を動かす中で、講師の運動能力の素晴らしさを実感したり、子ども達同士でチームワークを考える活動があり、そのような体験ができなかったことは残念でしたが、TV画面を通して講師の思いをしっかり受け止め、自分の夢や目標に向けて、自分なりの考えを持たせることはできたのではないかと考えます。

#### 【今後の課題・方向性】

全国学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の苦手な部分を早期に把握することで日常の指導に活かしていきます。

外国語活動及び中学校の英語指導については、引き続きALTを小中学校に配置し、担任及び教科担任とALTが連携し充実を図ります。また小学校高学年の英語指導については、中学校英語教諭の乗り入れ授業を行い、英語力の向上を目指します。英語検定の検定料の助成を引き続き行い、中学校卒業時の英検3級程度の能力取得50%以上を目指します。

愛別チャレンジゼミについては、今後も継続していきますが実施方法を検討し、生徒の活用率を高めていきます。放課後学習サポートについても、開催のあり方をその都度検討し、持続可能な方法を考えていく必要があります。

ICT機器の活用については、児童生徒一人ひとりに配付されたタブレットを児童生徒が「文房具」の一つとして効果的に使用させることが求められます。中学校では持ち帰りが進んできており、今後は小学校高学年での持ち帰りが望まれます。また、タブレットを効果的に活用した授業構築の研修が必要と考えます。

「夢の教室」は、夢や目標を持つきっかけとなるように、今後も継続して実施していきます。

### **(2) 豊かな人間性と社会性を育む道徳教育の充実**

- ・道徳教育の充実
- ・ふるさと教育の充実
- ・読書活動の推進
- ・いじめ・不登校を解消する取組の充実

## ○成果指標

	R4 実績値		目標値	
①自分には良いところがあると思う児童生徒の割合	小学校6年 中学校3年	86.7% 83.4%	小学校6年 中学校3年	100% 70%
②地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学校6年 中学校3年	86.7% 60.0%	小学校6年 中学校3年	95% 100%
③1日に30分以上読書をする児童生徒の割合	小学校6年 中学校3年	40.0% 20.0%	小学校6年 中学校3年	45% 25%
④いじめはどんな理由があっても良くないとする児童生徒の割合	小学校6年 中学校3年	100% 100%	小学校6年 中学校3年	100% 100%

※全国学力・学習状況調査

### 【取組状況】

道徳教育については、「特別な教科 道徳」の時間を要として、学校の教育活動を通して道徳性を養ってきました。

ふるさと教育については、3年ぶりに愛別町音楽行進を開催することができました。また地域学校共同本部と連携し、地域の教育資源を生かした取組（達人クラブ・スキー授業における指導補助）が行われています。

読書活動の推進については、各学校における朝読書の継続や自動車文庫 a i - a i の運用、「愛 LOVE ぶっくんライターコンクール」を通して、図書に親しむ機会の充実を図り読書形成に努めました。

生徒指導については、いじめや不登校などはどの学校でもどの子どもにも起こり得るという危機感を共有させ、特にいじめについては、絶対に許されないという認識にたち、子どもの内面に寄り添う生徒指導に努めています。また中学校におけるいじめ撲滅に向けた生徒会活動への支援や冬季オリンピック金メダリストの阿部雅司氏を招いて「心と命の授業」を実施しました。

### 【自己評価】

学校の教育活動における道徳指導は的確に行われ、児童生徒は概ね自己肯定感を持ち毎日の生活を送っています。「特別の教科 道徳」の教科指導についても、各学校において、参観日及び校内研修等で授業公開が行われ、指導力の向上を図ることができました。

ふるさと教育については、少しずつ地域行事が行われるようになり、各子ども会の取組も行われてきております。また、達人クラブ等も行われ、地域の教育資源の活用ができていると考えます。

読書活動の推進においては、さまざまな取組を通して図書に親しむ機会の充実を図り読書形成に努めていますが、子どもの読書離れが進んでいます。自動車文庫 a i - a i の巡回の利用者についてはあまり多くなく、特に中学校においては利用者がほぼいない状態であり、利用者増加のため、巡回日のお知らせ等を行う必要があります。

生徒指導については、いじめや不登校などについて情報を共有し適切に対応しています。生徒会のいじめ撲滅運動や心と命の授業の取組を通して、いじめを許さないという認識が高まってきています。

### 【今後の課題・方向性】

道徳教育の要となる年間35時間、教科書を用いた「特別な教科 道徳」の授業において、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に入れるなど、指導方法の工夫・改善を行っています。また、家庭や地域社会との連携を図り、学校の教育活動全体を通して道徳性を養う指導を推進していきます。

ふるさと教育については、コロナ前の状況に少しずつ戻す方向で取り組んでいくことが望ましいため、「職業体験学習」においては地域の事業所に協力を願い、「達人クラブ」においては地域の人材活用を継続して行っていきます。

読書活動については、自動車文庫 a i - a i の巡回や学校ブックフェスティバルなど、図書に親しむ機会の充実を図り、読書習慣の形成に努めます。中学校においては、自動車文庫の利用者を増やすために図書バス巡回日を月行事予定表に入れ、さらに周知徹底を図っていきます。

生徒指導については、今後も多様化する児童生徒の問題行動に対して適切に対応し、いじめに対しては絶対許されないという強い認識のもと生徒会活動の支援を行っていきます。

### (3) 健やかな体を育む体力づくりと健康教育の推進

- ・ 体力・運動能力の向上
- ・ 食育の推進
- ・ 健康教育の充実
- ・ 望ましい生活習慣の確立

#### ○成果指標

	R4 実績値			目標値		
①全国体力・運動能力等調査で全国平均に達している項目数	男子 小学校5年生 5/8 中学校2年生 4/8	女子 6/8 4/8		全国平均を 男子は全項目を上回る 女子は半数を上回る		
②朝ご飯を毎日食べてくる児童生徒の割合	小学校6年生 中学校3年生	93.3% 100%		小学校6年生 中学校3年生	100% 85.0%	
③運動(体を動かす遊びを含め)やスポーツは大切とする児童生徒の割合	男子 小学校5年生 中学校2年生	100% 87.5%	女子 100% 87.5%	男子 小学校5年生 中学校2年生	100% 100%	女子 100% 100%
④毎日、同じくらいの時刻に起きたり、寝たりしている児童生徒の割合	寝る時刻 小学校6年生 中学校3年生	86.7% 86.7%	起きる時刻 100% 93.3%	寝る時刻 小学校6年生 中学校3年生	75% 75%	起きる時刻 95% 100%

※全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### 【取組状況】

体力・運動能力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施しました。また、発達段階に応じた体力の向上を目指した体育行事(運動会・マラソン大会・体育大会・中体連大会)を開催しました。また、異年齢の児童生徒が一緒に行うスポーツ少年団活動や部活動など運動に親しむ機会を設けました。

フッ化物洗口については、コロナ禍のため実施できませんでした。

また、町連携教育推進委員会の活動を通して、体育・保健授業の工夫の一つとして中学校の体育教諭による小学校6年生の体育への出前授業を行い、児童の体力・運動能力の向上に努めました。

#### 【自己評価】

体育行事や異年齢の児童生徒が一緒に行うスポーツ少年団活動・部活動など、運動に親しむ機会を前年度よりも確保することで、発達段階に応じた体力向上に努めることができました。

食に関する指導については、スクールランチが実施されたことで、委託業者から講師を派遣していただき、食育の授業を行うことができました。

フッ化物洗口については、まだコロナの感染予防を重視しており、実施することができませんでした。今後は学校と協議しながら実施に向けて進めていく必要があります。

保健体育の授業等も制限が緩和され、充実した内容になりました。連携事業の小学校体育の出前授業においても専門的な指導が行われています。

#### 【今後の課題・方向性】

体力・運動能力の向上については、発達段階に応じた体育授業の工夫・改善、運動会や体育大会など体育的行事の充実はもとよりスポーツ少年団活動、部活動など、運動に親しむ活動を支援します。町連携教育推進委員会の活動を支援し、体育の出前授業により、専門的な見地から体育・保健授業の工夫と改善を行い、運動に親しむ機会の確保と充実を図ります。また中学生の体力については、運動型の部活動に参加している生徒と他の生徒との二極化が課題となっています。

食に関する指導については、今後も委託業者と連携し、実施できるよう努めます。

フッ化物洗口については、コロナ感染予防に努めながら実施できるような体制を整備し、実施に向けて進めていきます。

望ましい生活習慣においては、ゲーム・スマートフォン等の情報メディアとの付き合い方が大きな柱となります。家庭や地域と連携した取組を推進していきます。

#### (4) 開かれた学校運営と信頼される学校づくりの推進

- ・学校経営の充実
- ・学校間連携の推進
- ・安全教育の充実

#### ○成果指標

成果指標	R4実績値				目標値			
		運動会 体育大会	学芸会 文化祭	年度末		運動会 体育大会	学芸会 文化祭	年度末
①学校行事、年度末保護者アンケートの回収率	小学校	44%	33%	88%	小学校	80%	80%	80%
	中学校	実施せず	実施せず	85.1%	中学校	100%	100%	100%
②教育連携推進委員会事業の達成状況	クリーン作戦、乗り入れ授業、(英語・体育・音楽)、幼小連携(幼児児童交流、職員研修)				確実な継続			

※保護者・児童生徒アンケート

#### 【取組状況】

学校間連携の充実と小中一貫教育の意識醸成を図るため、連携教育推進委員会を通して「連携通信」を発行し、小中それぞれの学校の様子の共通理解を図っています。

学校間交流事業は感染対策を行った上で、クリーン作戦、乗り入れ授業、音楽連携授業、幼中の交流事業等を開催することができました。

安全教育については、地域や関係団体と連携し、交通安全教室やスマホ安全教室等を開催し、安全意識を高める指導に努めています。

#### 【自己評価】

各学校において教育課程の創意工夫を行い、学校運営における重点目標と評価に関わるカリキュラムマネジメントの確立を目指して教職員一同で協力して取り組み、充実した学校運営ができています。

安全教育を通して、児童生徒は安全に関する知識を活用し、学校生活や日常生活の中で判断し行動できるようになっています。

#### 【今後の課題・方向性】

引き続き小中共通の「学校運営10の指標」を基調として、学校経営の評価と改善を図っていきます。

連携事業についても感染状況を考慮しながら、引き続き実施していきます。特に小中学校の交流事業については、小中連携・一貫教育をイメージしながら実施することが望ましいと考えます。

主体的・対話的で深い学びの授業実践については、町教研を通して、少しずつではありますが進んでいます。今後は町連携教育推進委員会の活動を通して、小中学校教員の授業交流を図り、小中一貫校へ向けての合同研修の実現を目指します。

安全教育については、引き続き学校の教育活動の中で、関係団体と連携をとりながら推進していきます。

## (5) 教育的ニーズに応え、だれもが輝く特別支援教育の推進

- ・ 教育的ニーズに応じた教育の推進
- ・ 切れ目のない一貫した指導と支援の促進
- ・ 指導体制の充実

### ○成果指標

成果指標	R 4 実績値	目標値
①特別支援対象者に対する個別の指導計画・教育支援計画の作成率	作成率 100%	100%を維持する
②特別な支援が必要とする児童生徒の保護者との巡回相談員等を含め教育相談を行った回数	児童生徒一人当たり相談回数 参観日 ケース会議 小学校 4回 1回 中学校 4回 0回	前年度を下回らない
③教職員の特別支援教育に関する研修会等への参加の割合	小中全教職員の行政機関等による研修参加率 80%	小中全教職員の行政機関等による研修参加率 40%

### 【取組状況】

町採用の特別支援教育支援員を小学校3名、中学校1名を配置し、一人ひとりに対応したきめ細かな指導ができる体制づくりを行っています。

教育支援委員会の研修として、講師に鷹栖町コーディネーショントレーニング実践研究会の方を迎え『子どもの体・脳・心をサポート～「学ぶ力」を引き出すコーディネーショントレーニング～』を開催しました。

パートナーティーチャーター制度の活用やケース会議を開催し、幼小中が連携した中で引継ぎをするなど、特別支援対象の児童生徒の実態把握に努めています。

### 【自己評価】

保護者のニーズに合わせて一人ひとりに対応した指導体制が構築されています。

行政機関等による研修会は、町外での開催がほとんどですが、コロナ禍のため参加率が低い一つの要因となりました。

教育支援委員会による講演会は、簡単な動きで、身体だけではなく、脳と心にも刺激を与え、存在能力を高め、感性・知性の発達につながる能力向上を目指したトレーニングを体験し、有意義で楽しい研修会を行うことができました。

### 【今後の課題・方向性】

特別支援教育については、児童生徒個々の状況に応じた適切な教育支援を行うため、引き続き特別支援教育支援員を配置し、教育環境や指導体制の充実に努めます。中学校は1名欠員となっているため、定員確保を目指します。また、適切な支援を行うために組織された教育支援委員会の研修や情報交流などの活動を支援します。

教育支援委員会と連携し特別な教育的支援を必要とする子どもたちの巡回相談やケース会議を適切に行います。各学校において、コーディネーターを中心に研修会及び講座の開催日程を共有するなどして研修活動の充実に努めます。

## (6) 多様な学びを支える質の高い教育環境の整備

- ・時代に即応する教材教具の整備
- ・快適で安全な教育環境の整備と体制の確立
- ・9年間の学びを支える教育環境の整備

### ○成果指標

	R4 実績値	目標値
①ICT 機器の整備・活用状況	各学校の活用状況 小学校 100% 中学校 100%	各学校の活用状況 小学校 100% 中学校 100%
②地域住民と連携した安全確保の取組	小学校での地域下校指導 スクールガードリーダーの配置	地域学校協働本部と連携した 見守り活動の確立
③小中連携・一貫教育推進のための環境整備	連携・一貫教育推進委員会の推進状況	推進委員会の推進状況

### 【取組状況】

教材教具の整備については、学校教育の情報化やG I G Aスクール構想の実現に向けて、校内通信ネットワークの整備を行い、校内で児童生徒1人1台が授業で有効に活用できる環境を整備しました。

児童生徒の安全管理や通学路等における安全確保については、学校、家庭、地域が一丸となった取組を進めるとともに「通学路安全推進会議」「スクールガードリーダー」による通学路の点検等を実施しました。

連携教育推進委員会が中心となって各事業計画を立てており、中学校音楽教諭によるアイペットバンドの指導や町内小中学校生とあいべつ校生徒によるクリーン作戦が行われました。

### 【自己評価】

I C T機器の整備が進み、機器を用いた授業が行われるようになり、校内で児童生徒がタブレットに触れる機会が増え、児童生徒が活用する場面が盛り込まれた授業が構築されるようになりました。

地域と連携・協力した安全指導により、児童生徒の規範意識は高いと思われます。

小中一貫教育を目指した連携教育推進委員会を年3回開催し、小中連携から小中一貫教育に向けた流れの醸成に努めることができました。

### 【今後の課題・方向性】

I C T機器の活用については、タブレットが1人1台貸与されてから3年目になります。校内での活用にとどまらず家庭への持ち帰りに向けての整備を進めていきます。今後は教師及び児童生徒がタブレットを積極的かつ効果的に活用できるよう教育活動の工夫が求められています。

安全教育については、通学路安全推進会議を開催し、関係機関との連携を図り、通学路の点検等を行い、児童生徒の安全安心を確保する活動などを引き続き行っていきます。



小中連携・一貫教育については、連携教育推進委員会を中心に、小学校において中学校教諭によるアイペットバンドの指導や体育等の出前授業等、小中一貫教育を意識した活動を推進していきます。また、小中一貫教育校を視察し、小中一貫教育に向けて準備を進めていきます。

### （7）専門性と実践的指導力を高める教職員研修の推進

- ・ 指導力と授業力の向上
- ・ 教育研究と研修活動の充実
- ・ 健康な職場づくりの推進
- ・ 服務規律の順守の徹底と働き方改革の推進

#### ○成果指標

	R 4 実績値				目標値			
		国語	算数数学	理科		国語	算数数学	理科
①授業がよくわかると回答する児童生徒の割合	小学校6年生 中学校3年生	100% 100%	100% 80.0%	93.3% 93.3%	小学校6年生 中学校3年生	95% 85%	90% 70%	90% 70%
②職員の研修会等への1年間の参加延べ数	参加延べ数	小学校 中学校	5 2 (2.89) 6 2 (3.87)		全職員が 8 回以上参加			
③健康な職場づくり	職場健診、ストレスチェックの実施				完全実施の継続			
④働き方改革アクションプランの達成状況	1 か月 45 時間を超えた教員の延べ人数 47 名 部活動休養日の実施 定時退勤日月 2 回以上実施				45 時間を超えない(在校時間－勤務時間) 部活動休養日の実施 定時退勤日月 2 回以上実施			

※全国学力・学習状況調査

#### 【取組状況】

小中学校では、算数・数学科の学習において、T T 指導・少人数指導・習熟度別授業を実施し児童生徒一人ひとりに応じた指導を行い、児童生徒の理解を深めています。

職員の研修については、町教研大会が愛別小学校で開催され、小中学校の教職員の授業研修を深めました。また、美深高等養護学校あいべつ校の久保先生を講師として特別支援教育の合同研修会を開催しました。

働き方改革については、教育職員の勤務状況を把握し、アクションプランの達成状況を確認し、指導にあたっています。各学校では月行事予定表や黒板等に定時退勤日を明記し、教職員一人ひとりの意識改革を行っています。

中学校においては、部活動指導に関わる負担軽減のため練習計画表を作成し、部活動休養日の徹底を図っています。さらに、複数顧問制を実施し交替での部活動指導を可能にしています。

#### 【自己評価】

小学校と中学校では、昨年度に引き続き、教育局より少人数指導や指導方法工夫改善のための教員の加配や町より特別支援教育支援員が配置され、きめ細かな指導体制が確保できており、児童生徒の基本的な学習の理解は進んでいます。

職員の研修については、町教育研究会の活動を生かして、町教育研究大会や町教研独自の研修会を開催できたことは良い成果につながると考えます。

働き方改革については、教職員の在校等時間、部活動休養日等は概ね守られており、アクションプランの達成状況は高いと考えています。

#### 【今後の課題・方向性】

学校においては、教育研究会を核とした授業研究などを通して教員の指導力・授業力向上へ向けての研修意欲を高める取組を推進します。また次年度はタブレットの家庭への持ち帰りを進め、授業のみならず家庭学習等での効果的な活用に関わる情報交流等が求められます。

働き方改革については、アクションプランに基づき学校閉庁日や部活動休養日、勤務時間の上限設定などを行い、取組の進捗状況を把握します。また、教職員一人ひとりが信頼される学校であるという自覚を持ち、教育課程の編成、授業研究、指導方法の工夫や改善を組織的に行い、学校力の向上が図られるよう支援していきます。

### (8) 連携・協働による地域とともにある学校づくりの推進

- ・ 地域の学校参画の促進
- ・ 社会に開かれた教育課程の実現

#### ○成果指標

	R4 実績値	目標値
①地域学校協働活動ボランティアの登録人数	活動ボランティア 24名	活動ボランティア 50名
②地域の人材を活かした活動の回数	小学校 9回 中学校 8回	小学校 7回 中学校 3回

#### 【取組状況】

学校運営協議会を年2回（7月・3月）開催し、小中学校の学校運営方針の質疑・承認等を行いました。

町民の方に地域学校協働活動ボランティアに登録していただき、小学校の「達人クラブの講師」「スキー学習の補助員」として学校教育に協力していただきました。

中学校では愛別町にゆかりのある方に講演をいただく「愛の授業」を実施しました。

#### 【自己評価】

学校運営協議会を2回開催し、学校経営方針や学校評価についての共通理解を図ることができました。

小学校の「達人クラブ」では、感染対策を行った上で有意義な活動を行うことができました。「スキー授業の補助」は、多くの指導者の協力をいただき、一人ひとりに対応した指導ができております。

「愛の授業」については愛別町出身の日本ハムファイターズ球団職員の枳穀涼介氏を招き講演をいただきました。生徒には大変好評であり、とても意義のあるものになりました。

### 【今後の課題・方向性】

学校運営協議会については、引き続き年に数回開催し、意見交流を行っていきます。

地域学校協働本部においては、活動ボランティアの人数確保を進め学校教育への積極的な参画を促進します。

学校運営協議会と地域学校協働本部が活動の両輪となり、学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い学校運営に意見を反映させ、地域と学校がパートナーとして連携・協働した学校づくりを推進していきます。

「愛の授業」については、特色ある活動で生徒にとっては貴重な講演であるため、今後も継続するのが望ましいと考えますが講師の選定が今後の課題となります。

### 3 社会教育

#### (1) 幼児期の体験活動やスポーツ活動等の充実

- ・ 学習活動及び体験・スポーツ活動の充実
- ・ 協力していただける方の育成
- ・ 関係機関の連携

#### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①ブックロール事業達成者数	延べ達成者数 25 名	延べ達成者数 33 名

#### ※社会教育に関する事業評価

#### 【取組状況】

幼児期における学習・体験活動と親子のふれあいの充実として、幼児期に絵本に出会い触れることを目的としたブックスタート事業と、その後のフォローアップとしてブックロール事業を継続して行っています。なお、絵本の読み聞かせ講座、スポーツ活動の充実としての幼児水泳サポート事業を9回実施し、幼児スキー教室についてはスキークラブに協力いただき実施しました。

#### 【自己評価】

ブックスタート事業では、読み聞かせボランティアと連携して、町の乳幼児健診に合わせて行うことで、乳幼児を持つ全てのご家庭へ、乳幼児期からの絵本をとおした親子のふれあいの重要性を丁寧に伝えていきます。また、ブックスタート事業の直後からブックロールを始められることで、その後の読書活動や図書室の利用につながっています。

#### 【今後の課題・方向性】

ブックスタート、ブックロール事業を継続するとともに、今後も読み聞かせボランティアと連携し、読み聞かせの重要性を伝えていく必要があります。また、読み聞かせボランティアの育成のため、今後も読みきかせの会と連携を図りながら、活動機会の提供や読み聞かせに興味を持つ人材の育成に努めます。なお、絵本の読み聞かせ講座については、子育て支援センターでも同じ事業を展開していますので、こちらでの事業は終了します。

スポーツ体験については、今後も新型コロナウイルス感染防止を図りながら、幼児センターと連携して実施に努めるとともに、今年度体験が出来なかった子ども達については少年期においてしっかりとサポートを行う必要があります。

#### (2) 少年期における体験活動の推進とリーダーの育成

- ・ 地域の特性を生かした体験活動の推進
- ・ 各種団体への支援の充実
- ・ 子ども会リーダーの育成
- ・ 地域で子どもを守り育てる環境づくりの推進

## ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①チャレンジ元気塾	元気塾 53名 52.4%	元気塾 70%
②リーダー研修修了者数	修了者数 7名	修了者数 2名
③地域行事に参加している児童生徒の割合(再掲)	「している」「どちらかといえばしている」 小学校6年生 86.7% 中学校3年生 60.0%	「している」「どちらかといえばしている」 小学校6年生 100% 中学校3年生 100%

※社会教育に関する事業評価・全国学力・学習状況調査

### 【取組状況】

地域資源を活かした様々な体験活動を行うチャレンジ元気塾を実施したほか、子ども会や青少年育成協議会の活動の支援を行いました。子ども会リーダー研修会については、7名の受講がありました。また、滋賀県東近江市愛東地区との少年愛のまち交流事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。子ども会連合会行事については、中止としたものもありますが、球技大会、レクリエーション大会については実施し、子どもの主体的な企画を支援しました。

### 【自己評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により地域行事や生活体験、交流の機会が減少しています。チャレンジ元気塾やリーダー研修会については、学校の夏休み期間の縮小などの影響による参加者の減少も大きいと考えられます。

少年期から地域の人やものに触れ合い体験することは、子どもの自己肯定感や地域社会への関心を高め、豊かな人間性を育むことから、今後も継続して体験機会を提供していく必要があります。

### 【今後の課題・方向性】

今後も感染症に対応した事業内容の検討や感染予防を十分に行うとともに、地域の実情や開催時期等も考慮し、安心して参加できる、より参加のしやすい事業の実施に努めます。

子ども会活動や地域活動の活性化を図るため、今後もリーダーの育成に努めるとともに、子ども会や青少年育成協議会などの各種団体への支援を行います。

また、少年期から地域社会に触れ、体験することの重要性を広く伝えるため、学校・家庭・地域の連携の強化や啓蒙・啓発活動など、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりを行っていきます。

### **(3) 青年期における地域と関わる学習機会の提供**

- ・社会の担い手としての自覚を促す学習機会の提供
- ・地域意識の醸成
- ・人材養成と学習機会の提供
- ・インターネットによる情報提供

### 【取組状況】

はたちのつどいについては、新型コロナウイルス感染予防のため簡略化した式となりましたが、例年通り1月に実施しました。

一方、青年団体活動については、地域行事が中止されたことにより団体についても活動がありませんでした。

### 【自己評価】

はたちのつどいは、地域で人生の節目を祝うことで、自らと地域との関わりについて改めて考え、地域社会の一員としての責務や自覚を促す機会となりました。

青年団体活動は、青年の活躍の場を設け、やりがいを持ち地域づくりへの積極的な参加を促しますが、コロナ禍の中で活動自体がなかったことから、支援を行うことができませんでした。

### 【今後の課題・方向性】

今後も社会人としての責任や義務を自覚し新しい人生の門出を祝福する場として成人式を実施していくとともに、令和4年4月施行の民法改正による成年年齢の18歳への引き下げに伴い、名称を「愛別町はたちのつどい」へと変更し、成年後における人生の節目を地域で祝福し、社会人としての責任や義務の自覚を促す場として実施します。

また、青年団体活動に対して、今後も積極的に支援を行うとともに、青年のニーズをとらえ情報を提供し、活動の場の拡充や地域づくりへの参画を図っていきます。

## （４）成人期における地域活動への参画体制づくりと幅広い学習機会の充実

- ・学習機会の提供
- ・地域づくりを目指す団体等との連携
- ・専門的指導者の発掘と活用
- ・インターネット等の活用による情報提供

### ○成果指標

	R 4 実績値		目標値	
①青年、成人を対象とした学習機会の参加者数	くらしの講座	30名	くらしの講座	75名
	ひまわり学級	20名	ひまわり学級	28名

### ※社会教育に関する事業評価

### 【取組状況】

ちいきの講座については、石垣山を巡るなどしたジオツアー後、旭大教授らによる講演ジオフォーラムを開催しました。また、自主的な学習を行うひまわり学級については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった活動もありますが、学習内容を話し合いながら活動を行っています。

### 【自己評価】

ちいきの講座については、新型コロナウイルス感染症の影響で回数をあまりできていませんが、ニーズにあった様々な学習機会の提供を行っています。

ひまわり学級については、学生自ら学習内容を決め、主体的、精力的に学習活動を行っており、会員の交流、学びの場になっています。

### 【今後の課題・方向性】

今後も感染症に留意しながら、生涯学習や地域について学び考える学習機会の提供に努めます。

ひまわり学級については、今後も感染症対策を十分に行いながら、自主的な学習と会員同士の交流や活動が失われないよう継続して支援していきます。

また、成年の社会参画を促す環境づくりのため、今後も生涯学習だよりやインターネットを通じた学習・活動機会などの情報提供に努めます。

## (5) 高齢者の知識と経験を生かすシステムづくりと世代間交流の推進

- ・生きがいを高める多様な学習機会の提供
- ・自主学習グループへの支援
- ・学習情報提供のための環境整備

### ○成果指標

	R 4 実績値		目標値	
①ほうらい大学学生数	学生数	34 名	学生数	40 名

### ※社会教育に関する事業評価

### 【取組状況】

ほうらい大学については、短縮日程などの新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら活動していますが、昨年引き続き異世代交流や学校祭などの事業は中止しました。

### 【自己評価】

学習数は減少していますが、定期的に仲間と集まり交流を深める社会活動へ参画することで、自己力向上と潤いある生活に寄与しています。

### 【今後の課題・方向性】

大学の活動や仲間と会うことを楽しみにしているという声も多く、今後も継続して支援していくことが重要です。また、よりやりがいのある学習活動に向けた地域での活動の場の拡充についても検討していく必要があります。

## 4 文化の振興

### (1) 芸術文化に触れる機会の提供と成果発表の場の充実

- ・地域や学校と連携した活動及び発表機会の拡充
- ・団体の自主活動の支援
- ・インターネットによる情報提供

#### ○成果指標

	R 4 実績値		目標値	
①町文化祭における出演・出展 団体(個人)数	出演出展延べ 数	36 団体 (個人)	出演出展延 べ数	55 団体(個人)
②文化連盟加盟団体数及び加盟 団体会員数	加盟団体数	11 団体	加盟団体数	12 団体
	会員数	109 名	会員数	193 名

#### ※社会教育に関する事業評価

##### 【取組状況】

音楽行進は、新型コロナウイルス感染防止のため、行進のみ実施しました。町民文化祭については、作品展示と芸能発表は会場を総合センターに移し、午前中だけ短縮日程としました。サークル等の各文化団体については、活動の縮小や一部休止などをしながら可能な範囲で活動を続けています。

##### 【自己評価】

新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していた文化活動ですが、少しずつ再開されてきています。文化活動は、人々の心や暮らしに豊かさやゆとりを与え、考え、学ぶきっかけとなることから、今後も感染症対策について十分に検討したうえで活動を継続していくことが必要です。

##### 【今後の課題・方向性】

今後も、感染症対策について十分に検討した上で、学校や地域と連携し鑑賞機会や成果発表の機会の充実に努めます。また、町民の主体的な文化活動を引き続き支援するとともに、生涯学習だよりやインターネットなどを通じた文化芸術情報や学習情報の提供に努めます。

### (2) 伝承・保護活動への支援

- ・文化の保存・保護意識の醸成
- ・郷土芸能伝承のための支援
- ・無形文化財保存のための後継者の育成
- ・史跡、文化財の保護



## ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①無形文化財伝承・保護活動(例会を除く)	活動数 3回	活動数 3回

## ※社会教育に関する事業評価

### 【取組状況】

町の無形文化財である愛別岐阜獅子神楽については、新型コロナウイルス感染症の影響により地域行事が中止となったことなどから活動が減少していますが、感染予防を行いながら精力的に活動しており、継続して支援を行っています。

町の郷土資料を保管している文化財収蔵庫については、建物の老朽化が進んでいることから、将来的な保管体制を視野に入れつつ資料の整理等を検討しています。

### 【自己評価】

愛別岐阜獅子神楽保存会に町内で開催された管内中央部8町芸術祭に参加し、披露していただきました。

また、郷土資料については、収蔵している資料の状況や収蔵庫の建物の状況などを確認し、必要最小限の維持をしています。

### 【今後の課題・方向性】

保存会活動について今後も支援していくとともに、引き続き活動の場の拡充に向け保存会やその他の教育関係機関等との連携を強化していきます。

文化財収蔵庫については、将来的な保管場所の移設や郷土資料の活用も視野に入れながら資料の整理を進めていきます。

## 5 スポーツの推進

### (1) スポーツ活動の提供と参加促進

- ・スポーツ活動への参加促進
- ・心を育む教室の開催
- ・サークル活動への支援
- ・学習機会の提供及び研修への参加支援
- ・スポーツ活動や施設利用に関する情報提供

#### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①健康づくり教室参加者数	健康づくり教室 2 講座合計 30 名延べ 337 名	3 講座参加者延べ人数 450 名
②チャレンジデー参加者数(参加率)	50.5%	チャレンジデー 70%
③町民スポーツデー参加者数	町民スポーツデー 177 名	町民スポーツデー 400 名

#### ※社会教育に関する事業評価

#### 【取組状況】

健康づくり教室については、天候不良で一部中止となった回もありますが、予定していた講座をほぼ行うことができました。

全国一斉チャレンジデーについては、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら実施しました。また、町民スポーツデーについては6つの分館が実施しました。スポーツ協会の行う大会については、中止となったものもありますが、感染防止対策を行いながら実施しました。

#### 【自己評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた多くの大会や教室が中止となり、スポーツ活動の機会が減少しました。その中でも、自宅のできるエクササイズの動画配信などを初めて行いました。人を集めて教室をできない中では、良い取組になったと思います。

また、感染防止対策を行いながら開催できる大会、教室については、可能な限り実施し、なるべくスポーツの活動機会を減らさないように努めました。

#### 【今後の課題・方向性】

今後も、感染予防策を十分に行いながら各種スポーツ教室や大会を開催し、スポーツ活動の機会提供に努めるとともに、自発的なスポーツ活動を促し、だれもが、いつでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりに努めます。

## (2) 快適に使用できるスポーツ環境の充実

- ・ 快適に使用できる施設の提供

### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①スポーツ関連施設利用状況延べ利用者数	スポーツ関連施設延べ利用者 24,600 名	スポーツ関連施設延べ利用者 39,000 名
②学校開放事業利用者数	学校開放事業延べ利用者 1,611 名	学校開放事業延べ利用者 2,800 名

### ※社会教育に関する事業評価

#### 【取組状況】

指定管理による総合スポーツ公園の運営と学校開放によるスポーツ環境の提供を行っています。少しずつコロナ禍前の利用状況に戻りつつあるので、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら運営・提供します。

#### 【自己評価】

コロナ禍前の状況に戻りつつあるので、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、スポーツ関連施設、学校開放を実施し利用者数が増加しています。安心して利用できる施設運営を継続するとともに、日常的なスポーツ活動についても啓発、情報提供を行っていく必要があります。

#### 【今後の課題・方向性】

引き続き感染防止対策を行いながら施設運営をするとともに、安心快適なスポーツ環境の整備に努めます。また、住民のニーズをとらえ、生涯学習だよりやインターネットなどを通じたスポーツ活動や健康づくりなどの情報提供、啓発に努めます。

スポーツ施設の中には、老朽化が進んでいるものや利用の少ない施設もあり、将来を見据えた施設の活用方法や維持管理の方法、廃止等の検討も視野に入れた施設運営を行っていく必要があります。

## 6 基盤整備

### (1) 社会教育推進のための基盤整備

- ・既存施設の整備及び有効活用
- ・情報提供の充実

#### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①公民館図書室の利用者数及び貸出冊数	利用者 871 人 貸出冊数 3,484 冊	利用者 1,650 人 貸出冊数 4,250 冊
②公民館等施設の利用者数	利用者数 14,202 人	利用者数 19,000 人

#### ※社会教育に関する事業評価

##### 【取組状況】

分館等施設についても、少しずつコロナ禍前の利用状況に戻りつつあるので、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら運営・事業実施をします。

また、様々な地域活動や学習情報を提供し社会教育活動に地域が一丸となって参画する環境づくりを進めるため、毎月1回の生涯学習だよりの発行や町SNSなどを活用した情報発信を行いました。

##### 【自己評価】

公民館図書室については、少しずつコロナ禍前の利用状況に戻りつつあるので、利用者は昨年より増加しており、コロナ禍における自宅時間への活用が見られます。

公民館等施設についても利用者数が増加しており、感染症に注意しながら地域活動を再開してきています。

##### 【今後の課題・方向性】

公民館等施設については、引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を行った上での運営に努めるとともに、公民館を中心とした地域活動や交流の促進に向け、各分館と連携を図りながら公民館施設一体となって進めていきます。また、公民館図書室についても、引き続き蔵書の充実を図り、読書に親しみやすい魅力ある図書室づくりを行っていきます。

また、関係する部署と連携を取りながら、生涯学習、スポーツ、文化情報や地域活動などを広く伝え、町民の主体的な学びと活動を促進し、地域一体となって社会教育活動に取り組む環境づくりに努めます。

## 7 地域の教育力の向上

### (1) 連携と協働による地域の教育力の向上

- ・人材や自然を生かした学習機会の拡充
- ・関係団体の連携促進
- ・指導者の育成
- ・地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進

#### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①青少年育成研修の集い参加者数	集い参加者 37 名	集い参加者 60 名

#### ※社会教育に関する事業評価

##### 【取組状況】

子ども会育成会連絡協議会と連携し、子ども会連合会行事や育成会活動を支援しています。また、青少年育成協議会と連携し、青少年の健全育成や地域で行う子育てをテーマにした青少年育成研修の集いの開催や、地域学校協働活動として学校への地域ボランティアの派遣などを行っています。

社会教育委員等研修については、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催などもありますが、上川管内社会教育委員基礎講座に1名、上川管内社会教育委員等合同研修会に4名の委員が参加しました。

##### 【自己評価】

単位子ども会によっては、子どもの数の減少により活動を続けることが困難となっている地域もあり、今後の体制について検討が必要です。青少年育成研修の集いについては、新たに動画配信も行い、当日来られなかった方についても学ぶ機会を提供することができました。社会教育委員等研修については、参加した委員からは大変勉強になった、社会教育について考えるようになったという声もいただいております、社会教育委員の資質向上につながっています。

##### 【今後の課題・方向性】

子ども会の今後の在り方について検討していくとともに、子ども会の意義などを丁寧に伝え、地域の実情に応じた体制づくりと関係団体との連携等の支援を行っていきます。また、子育てや青少年の健全育成について、考え、学び、地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めるため、今後も青少年育成協議会と連携し、継続的な啓発活動や学習機会の提供、地域学校協働活動を推進していきます。

町の社会教育力向上のため、研修会への参加やその他情報提供を行い、引き続き社会教育委員の資質向上に努めます。

## 8 家庭教育

### (1) 子育て家庭をつなぐ支援活動の充実

- ・子育て支援活動の推進
- ・子育て家庭の教育力の向上

#### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①子育て研修会の参加者数	21名の幼児とその保護者	子育て研修会参加者数 保護者のみ 35名 親子の事業 80名

#### ※社会教育に関する事業評価

#### 【取組状況】

例年、青少年育成協議会と連携し子育て研修会を開催しています。引き続き新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら研修会を実施します。

子育て支援グループとの連携による絵本をとおした親子のふれあいや、青少協だよりなどを通じた生活習慣の啓発活動などを行いました。

#### 【自己評価】

家庭教育などについて学習する機会の提供とともに、同じ子育てをする保護者が悩みや思いを共有することで新たな学びにつながることから、親子の絆を深め他の家庭と交流する場を設けることが大切です。

また、子どもの豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力を身に付けるため、子育て支援グループや青少年育成協議会などと連携しながら、家庭教育や健やかな生活習慣などの啓発活動を継続していくことが重要であり、令和4年度も青少協だよりや生涯学習だよりで、早寝早起き朝ごはんなど生活習慣や家庭教育に関する啓発に努めました。

#### 【今後の課題・方向性】

子どもの健全で確かな育ちの原点は家庭にあることから、今後も子育て研修会などの保護者が子育てについて学び交流する機会を提供するとともに、子育て支援センターや子育て支援グループなどとも連携しながら、地域社会全体で子育てを支える環境づくりと子育てをする親への支援に努めます。

## (2) 学びのセーフティネットの構築

- ・学びのセーフティネットの推進
- ・安心・安全な子どもの居場所づくりの推進

### ○成果指標

	R 4 実績値	目標値
①愛別天神クラブ参加者数(参加率)	天神クラブ参加者 40名(39.6%)	天神クラブ参加者 70%
②チャレンジゼミ参加者数(参加率)	チャレンジゼミ参加者 20名(42.5%)	チャレンジゼミ参加者 60%

### ※社会教育に関する事業評価

#### 【取組状況】

学校の夏季休業中における子どもの学力体力向上や学習習慣の定着と、仲間とともに学び体験する機会の提供の場として、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら愛別天神クラブを3日間実施しました。また、例年中学生を対象に行っている愛別チャレンジゼミについては、旭川錬成会と連携し、タブレット等を利用してオンライン授業を行いました。

#### 【自己評価】

愛別天神クラブについては、学習支援のほか、様々な体験や職業などにふれることで、色々なものごとに興味を持ってもらう機会となっています。また、旭川市の大学生にボランティアとして参加してもらっており、普段触れ合うことのない年代の青年との交流が子どもにとってよい刺激となっています。

チャレンジゼミについては、勉強への取り組み方が変わった生徒が62.5%で、学習意欲の向上につながったと考えられます。

#### 【今後の課題・方向性】

今後も放課後や長期休業期間中における家庭学習や体験活動などの支援を行っていくとともに、安心安全な子どもの居場所をつくり、だれもが気軽に参加し学ぶことができる環境の提供と、様々な場面で子どもを見守り、だれもが取り残されることのない学びのセーフティネットの構築を進めていきます。そのため、引き続き効果的な学習支援を行っていく必要があります。